

【紹介受診重点医療機関について】

・紹介受診重点医療機関について「意向あり」かつ「基準を満たしている」小松市民病院については、紹介受診重点医療機関となることを確認した。

・紹介受診重点医療機関について「意向あり」であるが、「基準を満たしていない」加賀市医療センターについては、反対意見があったため、継続協議となった。

<反対意見>

・南加賀医療圏における地域医療構想の推進においては、紹介受診重点医療機関の機能と役割の検証が重要となります。令和6年2月からは加賀市医療センターも重点医療機関として承認され、選定療養費の徴収を開始しております。つきましては、1年が経過したこの時点で、紹介率の現状についてご報告をいただきたいと考えております。紹介受診重点医療機関は、かかりつけ医との連携を通じて適切な医療機能分化を進めることを目的としておりますが、仮に紹介率が伸び悩んでいる場合には、地域住民の皆様にとって選定療養費という新たな負担が増す一方で、制度の本来の趣旨である「機能分化による適正な医療提供体制の構築」が十分に果たされていない可能性もあります。南加賀医療圏全体でみた場合、特に小児科や産婦人科などの診療体制の充実も含め、専門性の高い医療を担う機関への機能集約が一層求められる状況にあります。そのような観点からも、重点医療機関の数や配置については慎重な見直しが必要と考えております。とはいえ、加賀市医療センターが地域医療に果たしてこられた役割は大変重要であり、加賀市としてのご意見や今後の方向性についてもぜひお聞かせいただきたいと考えております。今後も南加賀地域全体として最適な医療提供体制を構築するため、関係機関との対話と連携を重ねながら、住民にとって真に有益な地域医療の在り方をともに考えてまいりたいと思います。

・紹介率、重点外来の割合が低く、人口減少により今後も改善が見込めないのではないか。高度な手術、化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要な治療は、高度医療で集約させた方が良い。加賀市は、高齢化率も高く、デジタル田園健康特区に指定されていて、フレイル高齢者の予防、救急医療と在宅医療へのタスクシフトを掲げていて、中等症の高齢者の救急医療、栄養管理とリハビリによる在宅復帰を目指すことで、医療介護の連携を図ることに重点を置くことがその目的に合致するのではないか。